

## 破裂性腹部大動脈瘤に対するステントグラフトによる血管内治療の臨床成績

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遊佐, 裕明 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032599">https://doi.org/10.20780/00032599</a>

## 主論文の要旨

破裂性腹部大動脈瘤に対するステントグラフトによる血管内治療の臨床成績

東京女子医科大学 心臓血管外科学教室

(指導教授：山崎 健二 教授)

遊佐 裕明

東京女子医科大学雑誌 第 87 巻 122 頁～127 頁 (平成 29 年 8 月発刊) に掲載

### 【要旨】

破裂性腹部大動脈瘤に対するステントグラフトによる血管内治療 (EVAR) の臨床成績について検討を行った。対象は 2012 年 1 月から 2017 年 3 月までの期間に綾瀬循環器病院において施行した EVAR289 例のうち破裂性腹部大動脈瘤に対して緊急で EVAR を行った 25 例を対象とした。対象患者の平均年齢は  $76.4 \pm 9.6$  (52 - 88) 歳、男女比は男性 16 例、女性 9 例であった。全例、術前に CT による評価を行い、解剖学的適応について検討を行った。中枢ランディングゾーンが 15mm 以下のショートネック症例は 12 例に認めた。手術は全例ハイブリッド手術室にて施行し、1 例を除き全身麻酔にて手術を施行した。全例、bifurcated graft を使用して治療を行い、技術的成功率は 96% であった。EVAR が困難で、開腹手術に移行した症例は 0 例であった。病院死亡は 2 例 (8%) で、死因は 1 例が肺炎、1 例が腹部コンパートメント症候群による多臓器不全であった。術後に心血管イベントを認めた症例は 0 例であった。当院における破裂性腹部大動脈瘤に対する EVAR の治療成績は満足できるものであった。過去の開腹手術による治療成績と比較すると EVAR は治療成績が良好で、破裂性腹部大動脈瘤に対する治療の第一選択としてなりうるものと考えられた。